

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第37025号

発行所 琉球新報社

〒900-8525那覇市天久905番地

電話 098 (865) 5111

©琉球新報社2012年

石垣市在住の金子さん、2年連続

石垣市在住の金子晴彦さん(50)は、日光東照宮(世界遺産)での展覧や、フランス・トウールのギャラリー「エスパイア」の日本現代作家展やスミス・トウールのアート展にも参加している新鋭の作家。その金子さんが1月20日から24日、パリで開催された世界一難関の「メソ・エ・オジエ」に2年連続の出展を果たした。初出展には嬉しいといわれるこの見本市の現場で、昨年は初出展にもかかわらず、ヨーロッパや中東から多くの買い付け注文を受けた石垣焼。今年もさらなる関心が寄せられてきた。

フランス

で採れる鉱石から発色した「ふつときせ」、その周りを美しい海の色と、油滴天目取り囲む艶のある油滴天目を融合した器。中央に輝くの黒は南国沖縄の明るい日差しに相応した深い陰の美しいイノ(礁池)をほよつにも見える。

とされるための登門といわれるこの見本市で、金子さんが創り上げた石垣焼は世界で認められた陶器の仲間入りを果たした。透明のガラスに、石垣島

石垣焼を仏で出展



L'atelier du potier de Ishigaki - Paris
 "C'est un plaisir de participer à l'exposition de la poterie japonaise à Paris. C'est l'occasion de présenter à la fois les techniques de la poterie japonaise et la culture de la poterie française. Je suis très honoré de participer à cette exposition."
 A l'avenir, j'espère pouvoir présenter les artistes japonais à Paris et participer à des expositions similaires.

メソ・エ・オジエに2年連続の出展を果たした金子晴彦さん(パリ市)

「字論焼」を生み出した父を持つ金子さん。その技を引き継ぐため陶芸の道に進んだ。土や鉱石が豊富な石垣島に工房を開き、さらに島に存在する鉱石の研究を重ね現在の世界ランクの焼き物を生か出した。「石垣島は特に川平灣がミニチュアサイズで三つ星になっているが、ヨーロッパの観光客は依然少ない。石垣焼を知ってもらいたい。多くの観光客を呼べるよう努力していきたい」と笑顔で語った。(大城洋子通信)